



# 8月 土居隣保館カレンダー



日	月	火	水	木	金	土
	1 同和問題 学習会	2	3	4 λ0-170ビ ック 10:00~	5	6
7	8 同和問題 学習会	9	10	11 山の日	12	13
14	15	16	17	18 λ0-170ビ ック 10:00~	19	20
21	22 同和問題 学習会	23 3B体操教室 10:00~	24	25 λ0-170ビ ック 10:00~	26 職業相談 10:00~	27
28	29	30	31			

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定が変更・中止となることがあります。

## 隣保館では、人権相談や職業相談を行っています

悩んでいることはありませんか？

隣保館は、いつでも人権に関わる悩みを相談できる窓口です。「職場でのハラスメント」

、「職場や学校に行けない」など悩みがありましたら、何でも相談してください。

また、毎月25日（原則）は、ハローワークの巡回相談（職業相談）を行っています。

巡回相談は、電話による予約制となっています。

# 土居隣保館便り

令和4年

# 8月号

発行：土居隣保館 〒799-0703 土居町藤原 5-400-3 TEL/FAX 28-6356



土居隣保館は、社会福祉法に基づき地域住民のコミュニティセンターとして、

社会福祉の充実や増進を図るとともに、同和問題をはじめとするあらゆる人権問題の

解決を図るために設置された施設です。人とひとが交流を図り、誰もが住みよい地域

づくりの拠点として、相談事業、各種講座や学習会、貸館事業など「人権と福祉のま

ちづくり」の実現に向けて、さまざまな隣保事業に取り組んでいます。

みなさんのご来館をお待ちしています！



# 先人の生き方に学ぶ

## 村人の暮らしに寄り添い続けた人 岩崎伊三郎さん ② ～村議会へ、そして思いはつながっていく～

### 1 天満村村議会議員初当選

#### ○ 自分たちの地域から村議会議員を

村議会議員選挙があるたびに、それまで差別をしていた人たちが頭を下げて地域に投票を頼みに来ていました。そんな中、地域の有権者が集まって相談し、自分たちの地域から村議会議員を出そうということになり、伊三郎さんをお願いに行きました。

#### ○ 村議会のリーダーに

住民たちは一致団結して選挙に臨みました。その結果、選挙ではトップ当選を果たしました。

その後、76歳で亡くなるまで12年間村議会議員を務め、リーダー的な存在で他の議員からも尊敬されました。

### 2 親友団の結成

#### ○ 伊三郎さんの教えを繋ぐ

差別に立ち向かっていった伊三郎さんの生き方は、亡くなった後も村の青年に引き継がれていきました。岩崎分教場で育った人たちが、伊三郎さんの教えを引き継いで親友団を結成しました。

#### ○ 子どもたちのために

親友団を結成した当時も、伊三郎さんの時代と変わらず、村では行商で生計を立てている家庭が多くありました。家の仕事を担っていた子どもたちはなかなか学校に行けませんでした。親友団の青年たちは小学生を集めて、毎晩勉強を教えました。勉強だけではなく、神社を参拝したり、道路清掃も行いました。厳しいこともありましたが、子どもたちは、自分も親友団の一員であるという自覚と誇りをもって一生懸命に活動しました。

親友団で育った子どもたちは、その後も地域のために活躍し、伊三郎さんの思いを次の世代につないでいきました。

### 3 太鼓台の購入

#### ○ 楽しい秋祭りのはずが

当時、村には太鼓台がありませんでした。村の子どもたちは、秋祭りには他地域の太鼓台を見に行っていました。しかし、「お前らの太鼓台でないから触るな。」と他地域の人から言われ、太鼓台に触れさせてもらえませんでした。

#### ○ 太鼓台購入の準備

「子どもたちに悔しい思いをさせたくない。」と思った親友団の人たちが中心になって、太鼓台購入のために動き出しました。太鼓台購入のために正月の餅つきを引き受けるなど様々な活動をしてお金をためました。

昭和10年、ついに太鼓台を購入し、秋祭りに初めて宮入をしました。

### 4 頌徳碑建立

#### ○ 伊三郎さんの思いを後世に

昭和17年に、伊三郎さんの業績を後世まで残したい、また伊三郎さんの意志をしっかり伝え続けようという村民の思いから、伊三郎さんの頌徳碑が建てられました。

この碑には、若い世代の人に伊三郎さんの思いを引き継いで、力強くたくましく生き抜いてほしいという多くの人の願いが込められています。



伊三郎さんの「差別を許さない、差別に負けない」という思いは、今も多くの人に受け継がれています。村人たちの先頭に立って、人としての生き方を常に行動で示し続けた伊三郎さん。その思いを私もしっかりと受けとって、次の世代に繋いでいける大人でありたいと思います。